

平成28年度佐賀プライドプログラム 実施報告書

1 事業の概要

(1) 実施団体名	心と発達の相談支援 another planet (A S S R 株式会社)
(2) 実施期間	平成28年 7月～平成29年3月
(3) 対象者・人数	<p>発達障害のある県内の高等学校の生徒であり、以下の4つの条件を満たす生徒14名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師から発達障害 (LD / ADHD / 自閉症) の診断を受けている</li> <li>・ 在籍する高等学校又は高等専修学校の在学証明を得ている</li> <li>・ 高校1年生又は2年生</li> <li>・ 事業の効果測定調査に御協力いただける方</li> </ul> <p>(申し込みは19名だったが、辞退された方や、説明を行い対象として不適応と認められた方 (入院中のため) 5名を除く14名で実施。)</p>
(4) 全体目標の達成状況	<p>以下の内容で実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保護者への事業内容説明 (1回1時間×19名)</li> <li>2. アセスメントの実施 (事前アセスメント1回1.5時間×16名、その他アセスメント2～3回 (1回2時間) ×14名、アセスメントの結果報告それぞれ1回1時間)</li> <li>3. 個別セッションの実施 生徒本人への事業内容説明 (必要な方のみ3名 1回1時間)</li> <li>4. グループプログラムの実施6回 (2会場実施のため、のべ10回) 1回2時間 生徒向けプログラム及び、保護者向けプログラム 下記「支援の実施結果」に内容を記している。</li> </ol> <p>今年度は、昨年度の反省も踏まえ、生徒本人だけではなく、保護者へのプログラムの強化を行った。昨年度は検査結果報告をグループプログラム終了後に実施していたが、プログラム実施中の意識改革を行うため、プログラムの最中に結果報告を行った。現状を正しく認識することで、親としての関わ</p>

	り方や将来についての選択肢を知ることにより、本人についての理解を高め、家庭内での必要な支援が提供できつつあり、生活の改善も見られている。また、保護者自身の子どもの受け入れの難しさから、プログラム当初は保護者の精神状態が芳しくない（鬱傾向）と思われた方についても、学びの成果及び傾聴の効果から精神状態の回復も見られ、笑顔が見られるようになり、子どもへの前向きな対応も開始できるようになってきた。
(5) 実施体制	心と発達相談支援 another planet 臨床発達心理士 4 名
(6) 実施場所	武雄会場：心と発達相談支援 another planet（武雄市武雄町昭和 6－5 あさひビル 2 F） 佐賀会場：佐賀市内で、その都度部屋の確保できた場所で行った。 （アバンセ、市民活動プラザ、ほほえみ館）

## 2 支援の実施結果

区分	目標の達成状況、実施実績（回、人）、評価指標（実施前後）、事業の効果（指標の変化量） 等
(1) 自己認知支援	グループ指導外に、検査（ADOS-2）を実施し、生徒の正しい障害特性の理解を行った。 グループ指導においては、障害の説明、自分の長所と短所、周囲の人から自分がどう見えているかなどを考え、話し合った。保護者からも子どもの長所・短所を書きだしてもらうことで、自己評価と他者評価の違いについても認識することができ、自身の特性理解を深めることができた。 また、保護者に対し、毎日の子どもの行動記録をつけてもらうことで、子どもの行動の特徴、感情の表現方法、感情の波などの正しい理解を促した。
(2) ライフスキル向上支援	グループ指導外に、検査（Vineland-II）を行い、現在の生活レベルの適応行動の把握をした。 結果を保護者に説明し、子どもの正しい状況把握に努めた。ライフスキル向上のために、ABA（応用行動分

	<p>析) の随伴性契約についての説明を行い、家での生活支援についての方法を提案した。</p>
(3) 感情コントロール	<p>グループ指導外に、保護者に検査（子どもの行動チェックリストと BDI-II）を、生徒本人に対し検査（C D I）を実施し、状況把握を行った。</p> <p>グループ指導において、CBT（認知行動療法）を活用した The CAT-Kit という教材を用い、自身の感情（喜び・怒り）についての分析を行い、感情コントロールの方略について学んだ。コントロールの方略は、必要なときに思い出せるように、各自持ち運べるように作成した。</p> <p>保護者には、日々の子どもの行動記録から感情の理解と、A B C分析の説明を行い、子どもの行動に対し、結果をどのように提示するのがいいのかを説明した。</p>
(4) 進路選択支援	<p>生徒本人、保護者ともに、自閉スペクトラム症の先輩方（大学、大学院、就職など）の話聞く機会を設け、進路や成人期の生活についての展望を持てるような学びを得た。専門家からの指導も効果的ではあるものの、同じ障害を持つ先輩からの言葉の受け止めが大変よかったようで、それぞれに自分にとって必要な情報を得ることができていた。保護者にはさらに保護者としての先輩の話、高校の先生の話聞く機会も設定し、支援方法や支援機関についての情報や、本人への接し方についての情報を得る機会とした。そのことで、子どもを責めたてるような発言を控えることや、幅広い進路選択へつながっている。</p>